

ゆずの風新聞

令和3年
花が咲いたぞねーの号
発行
馬路村農協



農協HP
はごちら

さあさあ
今年はどうじゃろう。

初夏のゆず畑は白い花が一面を埋め尽くします。瞬きの間に終わってしまう花の季節ですが、この時の花の付き具合が、今年のゆずが豊作になるかを左右する重要なポイントになります。今年は概ね多めの様子。辺りにはゆずの花の心地よい香りが漂っています。

すみちゃんのバリンガルコーナー

86歳

村特有のバリンガル用語がたくさんあります。あなたはわかるかな？

Q) ぐつすけ

例) 【ゆず園での会話】おーの畑に行ったら、草がぐつすけ生えちやうた。

※答えは裏面に

温泉バイン風呂

うまじ温泉で恒例の女湯限定バラ風呂が今年も始まりました。「女性が喜ぶことがしたいがよ。」と「ミニ」のよしひと君（支配人）が答えてくれます。

そして、間かずもがな16年前のバラ風呂をやり始めた当時の話もしてくれれます。「役場の担当課長（現村長）には怒られたけど。なんで馬路でバラながよって。それでもバラ風呂をやってよかった。昔は年配の方が多かったけど、今は老若男女が来てくれるようになったさね。馬路は道が悪い？来てくれた人には喜んでもらいたいがよ。」よしひと君の優しさもいっぱいバラ風呂。ぜひ一度、体験してみてください。



バラ風呂の日	
	2021年
11/1	6/1
12/1	7/1
	2022年
1/1	8/1
2/1	9/1
3/1	10/1

がんばるがなばる村のスポ少



村外からやってきて、わからなかったもののシリーズの一つ、『スポ少』。馬路村スポーツ少年団の略称であるのですが、活動の基本は野球であり、飲み会の席などでも「今年のスポ少はなあ、」と話が出てくるほど、村ではスポ少の存在意義が重宝されております。そんなスポ少ですが、近年の子どもの人数不足により七年ほど試合どころか練習もできておりませんでした。最近になりすこし小学生の数が増えてきたのを契機に、七年ぶりに復活することとなり、これには子どもだけではなくおんちゃんたちも大喜び。放課後の練習時間になると、グラウンドの横を通る軽トラが足をとめ、慣れないグローブさばきを微笑ましく見つめ、しばらくすると用事を思い出したかのようにブーンと去っていきます。

「新しいスポ少の子らあはどうで？」と村の中では早速、この嬉しい話題で持ち切りの様子。グラウンドから聞こえてくる子どもたちの元気な声は、おんちゃんたちの希望です。



新しい村の味。



手軽に食べられるゼリーを、ということで始まったバックタイプの新しいゼリーの開発。あーでもない、こーでもない、を繰り返して、最終的に着いたのが「こっくん馬路村」。ゆずとハチミツでつくったシンプルな味が一番いいや、ということになり、第一号は「こっくん馬路村ゼリー」となりました。6月発売となりますので、どうぞ手に取ってみてください。まだまだ新しい味もつくっていきますので、ご期待ください。

「おんがずばん」 一本の電話。

農協広報係の携帯電話に村人からの電話が鳴ると、その日あった珍しい出来事を教えてくれたり宴会のお誘いなど、村の情報発信をする立場からすると嬉しい知らせが届きます（電話の大半が宴会のお誘いです）。

今日はイサオさんから一本の電話が。

「おんがずばん、すぐ来い！」要件も教えてくれめまま、その興奮具合に気圧され、すぐさまイサオさんの家に向くと、なんとそこには皆の身長ほどもある大きな猪。

「二五貫はあるろうなあ」（約：一〇〇キロ弱）

※猪師はなぜか、猪の大きさを「貫」で表現します。一貫は二七五キログラム。

猪は村の畑を荒らす害獣として、村人が試行錯誤しながら対策をしており、頼れる猪師であるイサオさんが駆除を買って出ております。そして今回はそのイサオさんでもめったにお目にかかれないほどの超大物が罠にかかっており、そりゃあ興奮気味に電話をかけてくれるわけです。

三人掛かりで猪を捌き終え、山の神様へ猪の心臓・内蔵・毛皮を串に刺し、お供えする。帽子を取り両手を合わせ心の中で感謝を述べるイサオさん。「山にたくさんの食料があつたら猪も畑を荒らすことはないろうけんねえ」とどこか寂し気な表情も見えます。悪さをする、というのは人間の尺度から見てものではありませんが、それでも山の暮らしを成り立たせるために私たちは山の命をいただいています。都会よりも自然との境界線が曖昧なこの村だからこそ、その重みや感謝をしっかりと受け止められているのかもしれない。



▲山の神様にお供え物をするイサオさん。



▼今回の猪で使した農。

ゆずの油

沢村先生
おいてサ-

ゆずの花のお話



高知大学名誉教授
沢村 正義

風薫る5月になると、馬路村ではゆずの花の香りがあちこちのゆず畑から漂ってきます。純白で可憐な5つの花弁をもつ花が、枝先に群がるように咲きほこります。

花が開くのは夜明けと同時に始まり、つぼみから花弁が開くときがもっとも香りが強いと言われています。そして時間の経過とともに花の香りは次第に弱くなっていきます。そこで馬路村では、香り高いゆずの花を香料原料とするため、各農家のゆず畑の開花時期を見計らって、早朝から花を集める作業にとりかかっています。

ゆずの花の精油は、花10キログラムに対してせいぜい1グラム程度しかとれません。花の精油を採取するのは手間暇をかける割には、わずかな量しかとれず、たいへん高価で貴重な素材となるのです。代表的な花の精油であるネロリは、ビターオレンジの花から採取されます。ゆずも同じ柑橘の仲間ですので、ゆずの花の精油もネロリの香りと同じように、リナロールやゲラニオールなどが醸し出す甘くフローラルで幸福感を感じる香りをもっています。

さらに、ゆずの花の香りは、βフェランドレンやチモールの割合が高いことから、ウッディで清涼感が加わります。このゆずの花の精油を使った化粧品の商品化に、馬路村が初めて成功したのです。

ちなみに、ゆずの花が自家受粉し青い実をつけていくことになるのですが、ゆずの花を摘むことによって摘果の効果も得られ、木の負担を軽減させることにもつながっています。

馬路村発 焼き肉のタレ

ゆずが香る味噌ベースのマイルドなタレで、ゆずの爽やかさが肉の脂っこさを抑えてくれます。化学調味料を使わず、リンゴや味噌など十五種類の素材を使い手作りでコク深く仕上げました！バーベキューや炒め物などにどうぞ！



インカの国は ようこそ 馬路村。



この春、地域おこし協力隊としてヒラセくんが馬路村にやってきました。なんと馬路村に来る前にいたのはペルー。

「ん？ペルーってどこやったかね？」の村人からの質問に「インカの国です。マチュピチュもあります」と答え、その強烈なワードに村の中ですぐに覚えられていってあります。ヒラセくんは大学卒業後JICA海外協力隊でペルーへ。自然保護区を管理している団体の小・中学校を回りながら自然保護の大切さを教えたり、コンポスト（生ゴミを堆肥化させる技術）を普及させる活動をしていました。活動の中で実際に現地の農家さんとふれあう事で農業の面白さや楽しさを感じ、食そのものにも興味を持つこととなりました。

それからヒラセくんは馬路村の有機農業に興味を持ち、自分で色々勉強をして行く中で有機農業の取り組みやその販売方法など色々な事を魅力的に思い、馬路村への移住を決めたそう、これから村のゆず栽培について学んでいきます。

「僕自身ゆず栽培は初めてで、実際に作業を教えて頂いて、すぐこの村も気に入っているし、ゆず栽培も楽しいので、有機農業やゆず栽培の勉強中だけど将来的にはゆず栽培に携われればなと思っています」

おーの嬉しい

またぞろコーナー

なんでもハガキ

ご注文とか、おーの嬉しいとか、もっと頑張れとか、なんでも使えるハガキです。
わたしは、ごっくんをネカメのんだ時ずいおいいな。と思いました。よくわたしは夏にごっくんを買ってかきごわりの上にかけてごっくんかきごわりにしています。これからは頑張ってください。

すみちゃんの バリンガル コーナー



「ぐっすけ」
「この上なくたくさん」
「ぐっすけ」は「この上なくたくさん」という意味です。大阪の泉州弁にも同じ意味で「ぐっすけ」がありますね。すけとも言う「が」がありますね。
例）おーのぐっすけ草が生えちゆうき 早う刈らないかん

馬路村移住

高知県東部、山のくねくね道を上った所にある自然豊かな馬路村。人口850人の小さな田舎暮らしに興味のある方は専用サイトもご覧ください。
HPをチェック

うまい温泉

つるつるのお湯でゆつたり食事、宿泊もできます。
電話番号
0887-441-2026
予約専用フリーダイヤル
0120-441-2026
【定休日】火曜日
（1日や祝日の場合は翌水曜日）



馬路村温泉 HP

編集後記

昨今のジョギングブームにのっかり、私も一念発起しジョギングを始めました。仕事終わりに夕方村の中を走っていると、スポーツ少年団の元気な声、畑仕事を終え軽トラを走らせるおんちゃん、定期練習に集まる村の消防団の人たちなど、昼間とは違った人や風景を見ることができ、ダイエットののために始めたジョギングも、村を楽しむ目的で、なんだか続けられそうです。だんだんと夏めいてきて、ジョギング後に川で身体を冷やせる日が、もう間もなくやってきそうです。